

2025 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 青 山 商 事 株 式 会 社
 代表者名 代表取締役社長兼
 執行役員社長兼 遠藤 泰三
 OMOリテール本部長
 (コード番号 8219 東証プライム市場)
 問合せ先 取締役兼専務執行役員 小川 誠
 (TEL 084-920-0050)

2026 年 3 月期第 2 四半期 (中間期) の業績予想値と実績値との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025 年 5 月 13 日に公表いたしました、2026 年 3 月期第 2 四半期 (中間期) の業績予想値と
 本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

あわせて、通期業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想値と実績値との差異について

- (1) 2026 年 3 月期第 2 四半期 (中間期) 連結業績予想値と実績値との差異
 (2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰 属 する 中 間 純 利 益	1 株 当 たり 中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	84,900	0	0	△1,200	△24 円 72 銭
実 績 値 (B)	81,973	77	297	△856	△17 円 65 銭
増 減 額 (B-A)	△2,926	77	297	343	—
増 減 率 (%)	△3.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (2025 年 3 月期第 2 四半期)	84,504	646	518	△630	△12 円 65 銭

- (2) 2026 年 3 月期第 2 四半期 (中間期) 個別業績予想値と実績値との差異
 (2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益	1 株 当 たり 中 間 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	51,100	△1,900	△200	△600	△12 円 36 銭
実 績 値 (B)	49,018	△2,224	△363	△563	△11 円 61 銭
増 減 額 (B-A)	△2,081	△324	△163	36	—
増 減 率 (%)	△4.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (2025 年 3 月期第 2 四半期)	52,107	△1,326	△382	△636	△12 円 76 銭

(注) 当中間連結会計期間より表示方法の変更を行っており、前中間連結会計期間に係る各数値について
 ては、表示方法の変更を反映させた組替え後の数値となっております。

2. 業績予想の修正について

(1) 2026年3月期通期連結業績予想値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	199,800	14,000	14,000	9,500	195円73銭
今回修正予想（B）	197,000	14,000	14,000	9,500	195円64銭
増減額（B－A）	△2,800	—	—	—	—
増減率（%）	△1.4	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （2025年3月期）	195,714	12,573	12,628	9,397	190円32銭

(2) 2026年3月期通期個別業績予想値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	130,700	9,400	11,200	8,500	175円12銭
今回修正予想（B）	129,400	9,400	11,200	8,500	175円5銭
増減額（B－A）	△1,300	—	—	—	—
増減率（%）	△1.0	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （2025年3月期）	131,015	8,826	9,842	8,452	171円18銭

（注）当中間連結会計期間より表示方法の変更を行っており、前連結会計年度に係る各数値については、表示方法の変更を反映させた組替え後の数値となっております。

3. 業績予想値と実績値との差異及び業績予想の修正の理由

<個別>

第2四半期（中間期）において、フォーマルウェアやカジュアルなどの商品は堅調であったものの、酷暑の影響による客数の減少などから、スーツをはじめとする主要アイテムの販売が低調に推移し、売上高は前回発表予想を下回りました。あわせて、経費の効率的な使用に努めたものの、営業利益につきましても前回発表予想を下回りましたが、営業外収益が想定を上回ったことなどから、中間純利益につきましては、前回発表予想を上回る結果となりました。

下期につきましては、重点戦略商品の発表や、販促の強化を行うことなどにより、既存店売上高前期比の前提を105.0%と想定し、売上高は当初の予想を上回る見込みであることから、営業利益及び経常利益も当初の予想を上回り、当期純利益につきましては、概ね当初の予想通りとなる見込みであります。

通期につきましては、売上高は前回発表予想を下回る見込みであるものの、各段階利益におきましては、前回発表予想通りとなる見込みであります。

なお、既存店売上高前期比は、上期実績96.2%、下期の前提は105.0%、通期101.5%であります。（前回発表予想前提：上期100.0%、下期103.0%、通期101.8%）

<連結>

主に、上記<個別>の理由により、第2四半期（中間期）実績値は、売上高が前回発表予想を下回ったものの、フランチャイジー事業をはじめグループ事業が好調に推移したことなどから、各段階利益につきましては前回発表予想を上回りました。

通期におきましては、売上高が前回発表予想を下回る見込みであるものの、各段階利益につきましては、前回発表予想通りとなる見込みであります。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上